

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892600016		
法人名	社会福祉法人 豊潤会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ゆたかな郷	ユニット名	—
所在地	〒319-2103 茨城県那珂市中里1184-1		
自己評価作成日	平成25年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&JigyosyoCd=0892600016-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月20日	評価確定日	平成25年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・通いサービスの利用時間を7:00～19:00にしたことで、家族の通勤前後の利用が可能です。（希望で朝食・夕食の提供をしています。）・配食サービスを実施しており、通いサービスの帰りに配食を持ち帰り夕食の提供をしています。また、利用を休んだ方にも希望時には自宅へ配食を届けています。・平成22年9月～くもん学習療法を取り入れて2年が経ちますが、「読み書き」や「計算」を用いた学習を行う事で、認知症の予防や改善につながるよう継続的に支援しています。・平成24年10月下旬～フットケアを取り入れています。入浴拒否がある方への清潔維持・リラックス効果や、むくみのある方の改善・予防につながるよう実施しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と全職員で作成した理念に基づき、職員は利用者一人ひとりのその人らしさを大切にしながら支援するとともに、家族の理解者となって信頼関係を築き、利用者が地域の中で今まで通りの生活ができるよう支援している。</p> <p>利用者の希望にそった外出ができるよう支援しており、かみね動物園や大洗水族館に出かけたり、偕楽園の観梅や茨城空港見学に出かけられるよう支援しているほか、利用者が楽しめるよう毎月外出時に回転寿司やラーメン、洋食屋など、利用者の希望にそった外食を支援している。</p> <p>事業所の納涼会では焼きそばや焼き鳥、綿菓子の模擬店を出店したり、輪投げなどのゲームコーナーを設け、子どもを含め沢山の近隣住民の参加を得ているほか、お囃子保存会による演奏が披露されて、地域との交流の場となっている。</p> <p>また、納涼会では近隣住民から舞台に使用するためのトラックを貸りるなど、地域の人々の協力を得ている。</p> <p>職員は利用者が那珂市の民族資料館に展示されているつり雛を見にでかけたり、市の多目的ホールで開催される歌や踊りの発表会を見に行けるよう支援するなど、地域の一員として暮らせるよう取り組んでいる。</p> <p>事業所に隣接している池周辺には桜並木があるほか、冬になると白鳥や鴨が飛来するため、利用者は居間に居ながらにして桜の花や渡り鳥を見ることができ、季節の移り変わりを感じながら過ごせる環境となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が考案した「暮らし・健康・自立支援・介護計画・家族・地域・専門職」の7つの項目に沿った理念を施設に掲示するとともに、毎朝の朝礼時に読み上げる事で共有しながら実践につなげている。	管理者と全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、毎朝の朝礼で唱和している。 理念を居間や相談室、トイレに掲示し、職員は常に理念に目を通すとともに、スタッフ会議時に理念を再確認しながら実践に努めている。 管理者は年1回実施する職員との面談の際に、職員の理念の実践状況を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動日に自主的に参加し、近隣のゴミ拾い活動を毎月行いながら近所の方と挨拶を交わしています。また、地域の方に事業所での納涼祭に参加していただけるよう声をかけたり、団地のお祭り等への招待や、夏には神輿が施設に寄ってくれるなど、行事ごとの交流もあります。	事業所主催の納涼祭では看板を立てて地域の人々に参加を呼びかけ、50名程度の参加を得たり、地域住民から舞台に使用するためのトラックを貸し出してもらうなどの協力を得ているほか、お囃子保存会やボランティアによるサックス演奏、盆踊りなどが披露されたり、利用者や職員による焼きそばや焼き鳥、綿菓子などの模擬店のほかに花火を行い、利用者が地域の人々と楽しく交流ができる場となっている。 小学生のボランティアを受け入れているほか、クリスマスには保育園児が来訪し、利用者と一緒にクリスマスカードを作ったり、遊戯を披露している。 市内の歴史民俗資料館に展示されているつり雛を見に出かけたり、市の多目的ホールで開催される琴や歌の発表会に利用者全員が出かけられるよう支援するなど、利用者が地域の一員として暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている地域の方々に、くもん学習療法（H22.9～）での取り組みや経過を報告し、認知症ケアの方法の一つとしてつたえているが、現在は特定の方のみである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やその家族、地域や関連機関の方々をメンバーに招き、事業所での取り組み・利用状況等を報告したり議題を問いかけたりしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者の代表や市職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、地域住民の代表3名の参加を得て開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告などを行うとともに、利用者が1人で外出しているのを見かけた場合には、事業所に連絡してもらえるよう協力を呼びかけている。 会議で地域住民の代表者から地域に住む一人暮らしの高齢者について相談が出たり、「事業所の災害時にはどのような物を持参して応援に駆け付ければ良いのか」との質問を受け、委員で話し合っている。 委員から出た「緊急時の連絡はメールで一括送信するのが良いのでは」との提案を受け、事業所のパソコンに職員のメールアドレスを登録するなど、出た意見等を運営に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が運営推進会議のメンバーに入っており、2か月に1度利用状況や取組みについて伝えながら相談・協力を得ています。	市担当者が運営推進会議に毎回出席しており、事業所で解決できない事や利用者に関する事などを相談し、助言を得ている。 管理者は介護保険法改正や書類の手続きに関する質問や相談がある場合は電話でなく市担当者を訪問し、情報交換をしながら協力関係を築いている。 市担当者と家族等との話し合いに事業所を提供し、管理者も同席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所にマニュアルを置いて全職員が学べるようにしていると同時に、必要時に利用者の所在を確認するチェックリストを作成し、職員の中で確認・見守りを行い、防犯の意味以外での施錠は行っていない。	利用者の行動制限は行わないこととし、身体拘束排除に向けたマニュアルを作成している。 身体拘束をしないケアに関する外部研修を受講した職員が伝達研修を行って全職員に周知しており、全職員が禁止の対象となる具体的な行為と弊害を理解している。 居間に「身体拘束排除宣言」を掲示するとともに、玄関を施錠せず、職員の見守りで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 やむを得ず身体拘束をする場合に備え、経過観察記録や検討記録などの書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば職員を研修に参加させています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	茨城県社会福祉士会が主催する地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強に参加しています。又、資料として頂いたDVDを参考に必要時に活用しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスを利用するに当たっての十分な説明と同時に、その時点で利用者・御家族が抱えている不安や希望等を伺い、事業所が提供できるサービスの範囲をご家族に伝え、納得した上で契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回生活懇談会を開催し、利用者に意見・不満が言える機会を設け、随時対応しながら運営に反映させています。年に1回の家族交流会では、職員との交流を通して意見・不満・苦情を述べる機会を作っていますが、直接言い難い事もあるためアンケートにて要望等を伺っています。	月1回利用者と職員で生活懇談会を開催し、利用者の意見や要望を聴く機会を設けるとともに、外出先や外食先などの要望を聴いている。 職員は利用者との日頃の係わりの中で話しかけたり、問いかけるなどで意見や要望を汲みあげている。 家族等からは連絡ノートを活用したり、来訪時に話を聴いているほか、年1回家族交流会を開催し、その後アンケートを実施して意見や要望汲みあげている。 家族等から出た「家族会の際に職員と話す機会が欲しい」との意見を受け、利用者や家族等、職員が同席する家族会の食事会では、話がし易いよう座席を工夫するなど、出た意見や要望を運営に反映させている。 玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記しているほか、傾聴ボランティアを受け入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議の中で、意見や提案を聞く機会を設けていますが、直接的な意見や提案を聞く事が多くサービス運営に反映させていません。毎年2月に全職員と面接を行い意見を聞く機会を設けています。	管理者は月1回スタッフ会議を開催して職員の提案を聞く機会を設けるとともに、日頃から職員の話聞くよう努めている。 職員の意見を取り入れて送迎車を増やしたり、職員を増員しているほか、トイレに手すりを設置したり、配膳車にカーテンを取り付けるなど、出た意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	功労者表彰・永年勤続者表彰制度があり実績により表彰しています。介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等へパートの方でも資格手当を支給、又、試験会場への交通費を支給しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が必要とする研修をそのつどレベルに合わせて選択し受講させるようにしています。職員として必要な知識・技術を法人内の年間計画に沿って勉強会を開催し参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	くもん学習療法（H22.9～）を開始後も、すでに取り組んでいる施設を見学して、職員の方から情報をとるなど刺激を受ける機会をとっている。県老協の管理者や、施設の介護リーダーが集う勉強会に参加して意見交換、交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前の面会時に、現在困っている事や希望などを本人から伺いながら関係を築けるよう努めている。また、何気ない会話から、普段口に出せないような悩みや不安に気付き把握することもあるので、個々に親身になっての傾聴を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後、どのようなサービスを望み提供していくのかという相談の中で、御家族がサービスの利用を希望するに至った経緯を伺いながら、不安や負担の軽減を図れるよう対応を行っています。サービス利用開始時には、御家族か相談しやすい環境になるような体制をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談の際に、小規模多機能型居宅介護サービスの機能を十分に説明し、利用者・ご家族の希望に合わせて福祉用具レンタルや訪問看護等他のサービスも含めた説明をし、対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特別な取り組みはしていませんが、普段の生活において利用者から経験豊富な知識や技術を学ばせて頂くことが多く、意見を尊重し傾聴するよう心掛けています。お茶の時間等に利用者職員が同じテーブルでお茶を飲みながら、話を伺うこともあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族との交流がなかなか取れない事もあり、グループホームと合同で「家族交流会」を企画し開催しています。交流会の中で職員と家族と一緒に食事をしたり、御家族からの利用についての意見を伺ったりしています。大掃除では、職員と家族が意見や知恵を出し協力する事で、関係を深めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設へ利用者の親しい友人や近所の馴染みの方が面会に来られる事もあるため、関係が途切れないような雰囲気を作り職員との対応に注意するとともに、馴染みの場所にも出掛けるなど実施しています。本人が、馴染みの方へ連絡したいという希望があれば電話で連絡が取れるように支援しています。	職員は利用者の友人や近所に住む馴染みの人が面会に来た場合は、居間でゆっくり話ができるようお茶を出して接待している。 利用者の知人が水戸黄門などのビデオを貸してくれている。 職員と利用者で月1回近隣のスーパーに買い物に行っている。 初詣は利用者の馴染みの神社に行き、利用者から神社の言い伝えなどを聞いている。 職員が同行できない場合は利用者の希望を家族等に伝え、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間に、気の合う親しい利用者同士を隣りの席にする配慮をしたり、自由にお互いの部屋に訪問したりと、交流している関係を継続出来るよう大切にしています。新規や孤立しがちな利用者には、職員が入りレクリエーションなど関わるきっかけが持てるよう心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の状況としては、サービス利用が終了した場合、次の事業所に引き継いでいるケースが多いが、長期入院で再びサービスを利用したいという御家族の要望には、再利用出来るよう配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの他に本人からの要望があれば、その都度話を聞き、出来限り意向に沿った暮らしが出来るよう努めています。困難な場合は、御家族からどういった生活スタイルがよいのか昔の話を伺うなどして把握に努めています。	利用者一人ひとりに担当職員がおり、利用者の希望や意向にそった支援ができるよう努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時や利用者の送迎時に家族等から話を聴き、利用者の今までの暮らしぶりなどを参考にしながら利用者本位に検討している。 職員が日々のケアの中で新たに把握した利用者の情報は、利用者毎の「つぶやきノート」に記録し、全職員で共有ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを利用する前に、本人と面会してこれまで及び現在の暮らしについての話を聞いたり、サービス利用の経過に関しては、他事業所や病院等からの情報提供で知ることも多いが、足りない部分は御家族に直接話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間帯により気分や感情の起伏が激しい利用者もいるため、一人ひとりの生活リズムを把握するためにも一日の様子を記録し、その人らしい暮らしが出来るよう職員全体で支援しています。通所の利用者の場合、御家族に自宅での様子を伺うなど、細やかな対応が出来るよう配慮しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っており、現在の状態について普段の会話の中や普段の生活の様子からケアの方向性を見出し、職員間での検討や本人と家族との相談内容を反映しながら作成しています。	担当職員と計画作成担当で利用者と家族等の意向や要望を取り入れた介護計画案を作成し、職員会議で検討して介護計画を作成している。 作成した介護計画は、家族等の来訪時や利用者の送迎時に家族等の確認を得ている。 3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、モニタリングの評価が介護計画に反映されておらず、現状に即した介護計画に見直すまでには至っていない。 モニタリングを3ヶ月に1回実施しているが、毎月実施するまでには至っていない。	モニタリングは毎月実施するとともに、モニタリングの結果を介護計画に反映させ、現状に即した介護計画を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜における利用者お言動や変化は細かく記録に記入し、全ての職員の間で情報を共有しケアを行っています。場合により、職員同士その場でケアについて検討したり介護計画に取り入れたりと、統一したケアが出来るように反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅で介護している御家族が急に体調を崩して症状が回復するまでの間や、独居で食事作の手間を減らしたいという利用者に対して配食サービスを提供したり、仕事の都合で利用時間を長くしたいといった御家族の希望等、状況に応じた対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で社協のボランティアに来てもたって催し物をして頂いたり、市の主催する催しを聞きに行ったりして楽しむ機会を作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族に相談して納得や了解が得られた場合、本人の病状や健康状態を考慮しながらかかりつけ医への受診支援を実施し、関係を築いている。御家族の付添が難しい場合は、通院介助・送迎を行い、定期的に適切な治療が継続して受けられるよう支援している。	利用者や家族等が希望する医療機関の医師をかかりつけ医とし、適切な医療が受けられるよう支援している。 受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等が付き添えない場合は職員が同行している。 受診結果は家族等と職員で報告し合うとともに、業務日誌や利用者毎の引き継ぎノートに記入し、全職員で共有している。 処方箋はコピーを取って家族等と事業所で保管するとともに、事業所では利用者の個人ファイルに保管し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等が利用者にもみられた場合など、常日頃から関わっている施設の看護職員に相談したり指示を仰いだりして、利用者の健康管理を十分に協働しながら支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて、再び施設に戻り生活出来るよう、病院のソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行っている。また、面会されている御家族から利用者の状況を伺い退院に向けての調整や話し合いも行っている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る事、支援の仕方をまだ検討中の段階です。当初6カ月の目標としていましたが、今年度中には「重度化した場合や終末期のあり方」の方針を定め、事業所として出来る事を明確にし、支援する体制を取っていきます。	可能な限り最後まで望む暮らしができるよう支援する事を目的とし、事業所でできることとできないことを明記した「重度化対応及び終末期対応における指針」を作成しているが、利用者と家族等に説明して意向を確認したり、同意を得るまでには至っていない。 管理者はスタッフ会議時に重度化や終末期に向けた職員研修を実施している。	「重度化対応及び終末期対応における指針」を利用者や家族等に説明するとともに、同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部の勉強会（年間計画にて緊急時の対応、感染対策、応急手当等）や外部研修においても随時学んでいるが、毎回全職員が参加出来ているわけではない。感染対策等、研修で学んだ職員が中心となって、全職員を対象にスタッフ会議時に勉強会を開催し、施設での対応方法を実践しながら学んでいます。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成24年度は消防訓練を8回実施。(1月時点) ・夜間建物火災想定：6回 ・夜間建物火災想定(消防署立会)：1回 ・地震想定避難訓練(地域協力)：1回 →今年度は、運営推進会議メンバーを対象に、事業所から緊急連絡網にて避難誘導の協力依頼を実施	年1回消防署立会のもと夜間想定を含めた総合訓練を実施している。 平成24年4月から平成25年1月までの間に地震や夜間の火災を想定した事業所独自の避難訓練を8回実施しており、その都度避難経路を変更して行い、検証するなどの工夫をしている。 避難訓練で明らかになった反省点と課題を記録し、次の訓練に活かしている。 緊急連絡網には近隣住民も含まれており、地震を想定した避難訓練の際には近隣住民に通報訓練を行うとともに、避難誘導訓練への参加を得ている。 常時60Kgの米を在庫に持ち、災害時に備えてインスタントの混ぜご飯や紙皿、割り箸を準備しているほか、衛生用品は常に多く保管するようにしている。 事業所で発電機を備えたり、大きな貯水槽を設置しているほか、車で10分程度の場所にある関連施設には水質検査実施済みの井戸が設置されており、災害時には協力が得られる体制を整えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中において一人ひとりの個性を大切に、尊厳や尊敬の気持ちを忘れないよう言葉かけと対応を行っている。宿泊している利用者の居室に職員が入室する際や、通所で持参するカバンからの連絡帳の出し入れをする場合も、一言お断りするなどプライバシーに細心の配慮をしている。	管理者と職員は利用者を尊敬するとともに、利用者に対する呼び方や言葉遣いなどに配慮し、一人ひとりの尊厳を大切にされた対応をしている。 職員は利用者のプライバシーに配慮し、通いの利用者が連絡帳を出し入れする場合には、かばんを勝手に開けず、利用者に声をかけ承諾を得てから出し入れをしている。 広報紙への写真の掲載など個人情報の使用については、契約時に利用者や家族等の同意を得ている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管して情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	旅行やレク、買い物外出等、行事への参加や日々の入浴などは一方的に決めることはせず、そのつど本人に決めて頂くよう心掛けています。一人での意志決定が難しい方に対しては、選択肢を提示して出来る限り本人の希望に沿いながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は、食事・お茶の時間は生活の流れとして決めています。が、それ以外のレクや行事等は不活発にならないようにしながら本人のペースで参加・見学して頂き、本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみとして、理容に関しては利用者の希望時に合わせて近所の美容院に出張してもらい、カット・カラー・パーマが出来るようにし、希望の髪型になるようお願いしている。また、買い物で衣類を買うなどの支援も実施しており、本人が好みの衣類を選んで購入できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、一人の職員が料理の感想を話しながら利用者と一緒に食事をとっています。食事を楽しみにしている方が多く、出来る方には野菜の皮むきや味付け、盛り付け等調理を手伝って頂き、後片付け時には食器拭きをお願いしています。昔馴染みや季節の料理などは、利用者の知恵を生かしながら一緒に行う事もあります。	食事が楽しみなものとなるよう、利用者の嗜好に合わせて代替食を用意したり、おせち料理を始めとした季節毎の行事食を提供している。 利用者は能力に合わせて野菜の皮むきや下膳、食器洗いなどを行っている。 毎月の外出行事に合わせて利用者が希望する回転寿司やラーメン、蕎麦などの外食も利用者全員で行けよう支援しており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量を記録することで一日の栄養摂取量を把握しており、摂取量に応じて栄養補助食品を摂取して頂くなど一人ひとりに合わせた対応をしている。糖分制限のある方には、ごはんを100gにしたりおやつ時に甘い飲み物を控える等の制限をしたり、塩分制限がある場合は、味噌汁の回数を減らすなど必要なエネルギーを摂取できるよう配慮している。水分摂取は、必要な方だけ記録し、好みの飲み物を提供しながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自立度の高い方には声かけ・誘導をし、入歯の方は極力外して磨いて頂き、介助が必要な方にはその方に合った口腔ケアを実施しています。必要に応じて訪問の歯科医師による治療と指導を受け、口腔内の清潔が保持出来るよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している方でも、紙パンツやパットを濡らさないよう、声かけ・誘導の間隔を短くし、トイレで排泄を行って頂き、出来るだけ適切な場所で排泄出来るように努めている。排泄パターンを把握するために、必要な方に対し排泄チェック表をつけ失禁対策を行っている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めた誘導や食事の前後に誘導するなど、利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。 職員は排泄のサインを見逃さないよう利用者を観察し、サインを察知したらトイレへ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は一日1000ccを目安に摂取し、便秘の方や心配な方には水分を多く摂って頂くようにしていますが、利用者の好みに合わせて乳製品や乳酸菌飲料を積極的に飲んで頂き排便を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の回数は、利用日に合わせて本人と御家族と相談しながら決めていきます。時間帯も決定せず、本人の希望に合わせて入浴出来るよう声かけしています。入浴時間は、その時々体調に合わせて長湯にならない範囲で本人のペースに合わせ、入浴剤を入れて乾燥肌対策や香りを楽しみながら入浴していただいています。	入浴の回数は利用者や家族等と相談して決めているが、利用者の希望や状況に応じて毎日いつでも入浴ができるよう支援している。 入浴剤を5種類準備して乾燥肌への対策をしたり、香りを楽しめるよう工夫をしているほか、柚子湯や菖蒲湯を取り入れ、季節を感じながら入浴ができるよう支援している。 利用者の体調に合わせて清拭や足浴で対応したり、足裏マッサージなどで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個人差があり、本人の体力や年齢に合わせて昼食後に休息して頂けるよう、ホール内に和室やベットを設けて気軽に横になって休める環境を整えています。就寝に関しては、PM7時からPM9時の間に居室へ入室して就寝して頂いていますが、眠れない時などには飲み物を提供するなど、リラックス出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一冊のファイルにし確認し、一人ひとりの服薬内容を職員各自が確認できるようにしており、内服の飲み忘れがないよう注意を払っている。下剤等の便秘薬については、看護職員と相談の上、便の状態により服薬を中止するなど臨機応変に対応している。症状の経過等については、ミーティング時に報告し次の病院受診時Drに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の予防・改善だけでなく、日々の日課の一つとして「くもん学習療法」に取り組んでいただいています。利用者一人ひとりの好みに合わせて、食後の食器拭きや裁縫といった趣味や得意なことを活かし、日々の張り合いに繋げています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や季節に合わせて散歩に出掛けています。冬は、敷地隣の池に白鳥や鴨などの渡り鳥が飛来するのでエサをあげに出掛けたり、春は桜の花が敷地周囲に咲くなど環境もよいので時間を見つけて気分転換を心掛けています。また、行きたい場所を聞いて遠足や食事外出などの行事を計画したり、冬の時期を除いて月に1度近所のスーパーへ買い物に出掛けられるよう支援しています。	天気の良い日は職員と利用者で近隣や敷地隣の池周辺を散歩し、白鳥や鴨などが飛来した時は餌をあげに出かけているほか、月1回地域のスーパーへ買い物に出かけられるよう支援している。利用者の希望を取り入れて年間の外出計画を立て、大洗水族館やかみね動物園、茨城空港、水戸の観梅、一乗院の菊祭りなど、様々な場所への外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際に、可能な方にはお預かりしているお金をお渡しし、レジでの支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族やご友人への電話は、本人の要望に応じて電話が出来るよう支援しています。手紙については、本人に代わってポストへ投函しやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のみでなく面会に来所される方など、誰もが居心地良く過ごせるような清潔感のある共有空間づくりに配慮しています。また、季節に合わせた行事ごとのレク作品や飾り付け、職員や利用者が活けた花などを飾るようにしている。	事業所に隣接している池周辺には桜並木があり、冬になると白鳥や鴨が飛来するため、利用者は居間に居ながらにして桜の開花や渡り鳥の様子を観て楽しむことができ、季節の移り変わりが感じられる環境となっている。広くて採光が良い居間兼食堂の一角に腰高の和室を設置し、七段の雛人形を飾って季節感を演出するなど、利用者が寛げる場所となっている。廊下やトイレ、浴室は清潔に保たれ、利用者の安全のために配慮して手すりを設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話室（相談室）は南側に面していて日当たりが良いので、時々窓際に座り日向ぼっこをしたり、ソファでゆったり休まれたりと、一人ひとりの心身に合わせて過ごせるよう配慮しています。宿泊利用の場合、全室個室なので、居室で一人自由に過ごされたり気の合う方同士で居室を行き来されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの方には必要であれば自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んで頂き、御家族の写真を飾ったり、テレビや家具で自室でくつろいだりと、居心地のよい空間づくりに努めている。	泊まりの利用者はテレビやテーブル、タンスなど使い慣れた物品を持ち込んだり、家族の写真や人形、自作の塗り絵の作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造の建物で家庭に近い造りになっていて、車イス対応でバリアフリーになっているため、杖歩行や歩行器での移動などが安全に出来る環境にもなっています。自立支援を目指し「見守り・寄り添う」ことしか出来ませんが、生活機能を低下させないように努めています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護 ゆたかな郷

作成日 平成25年6月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	モニタリングを毎月実施するまでに至っていない。	現状に即した介護計画を作成出来るよう、毎月モニタリングを実施する。	毎月週2回、曜日を決めてモニタリングの時間を設ける。	3ヶ月
2	12	一部の利用者及び家族等のみしか、事業所の方針を書面での説明・同意を得ていない。	まだ意向を確認していない利用者の家族に書面で説明し、同意を得る。	サービス担当者会議の際に、家族に書面で説明し、同意を得る時間を設ける。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。